

# 厚木稲門会だより

発行： 早稲田大学厚木稲門会  
事務局 神奈川県厚木市船子607-8  
(株)すまいる内  
Tel/Fax 046-296-6006

発行人：吉成征一 編集人：鈴木清一

## 平成25年度 総会・講演会・懇親会開く 役員改選、現体制を継続

平成25年度の厚木稲門会総会・講演会・懇親会が10月12日(土) レンブラントホテル厚木にて開催された。総会には会員47名が出席、大貫玉美幹事の司会で定刻午後3時に始まった。吉成会長の開会挨拶の後、早稲田大学高橋知裕地域コーディネーターによる簡単な大学の近況報告があり、その後直ちに総会に入った。恒例により吉成会長が議長に選出され、報告事項平成24年度活動の概況報告・分科会活動報告があった後次の2事項が承認された。1.承認事項 平成24年度会計報告・会計監査報告。2.審議事項 平成25年度活動計画・会則改定・役員改選。活動計画では俳句会、英会話同好会、女性の会の発足が目新しい。会則改定は年会費3年間未納者の退会を新たに定めた。役員改選は吉成会長体制となって2期目なので現行体制をほぼ踏襲した。続いて講演会に入った。『面白い日本語の発音』～近江はなぜ「おうみ」？～という演題の当会顧問である小林昭彦氏(昭32教育卒)の話に会員、来賓、

一般参加も含めた85名の聴衆は一気に引きずり込まれてしまった。日本の地名の由来に関する話は日本史を紐解くようで誠に興味深いものでした。後半の発音練習(口の体操)は老化防止にいいのではと真剣に拝聴した。(詳細は別掲) 会場を移し懇親会となった。吉成会長の歓迎の言葉で幕を開け、来賓25名の紹介、早稲田大学高橋知裕地域コーディネーター、慶応厚木三田会高橋徹也会長の来賓挨拶と続き乾杯に入った。発声は早稲田大学校友会神奈川支部長で横浜稲門会会長の北憲五氏。暫し歓談し、美味しい料理に舌鼓を打った。今会初めて立食をやめてバイキング形式の円卓着席としたが、落ち着いて食事ができ、体も楽で、好評のようであった。恒例の抽選会を楽しみ、いよいよ校歌斉唱。皆、学生時代を思い出し「都の西北」をフルコーラスで声高らかに歌い大いに盛り上がった。最後に柏木久雄当会副会長の閉会の挨拶で幕を閉じた。

(S45法 伊保朝夫)

## 横須賀・三浦稲門会主管 県支部大会 当会より23名参加

平成25年度早稲田大学校友会神奈川県支部大会が11月9日(土)に横須賀三浦稲門会主管によりヨコスカ・ベイサイド・ポケットで開催された。冒頭、校友物故者への黙祷があつて、横須賀三浦稲門会小林会長の歓迎の言葉で始まった。北支部長の挨拶があり、来賓挨拶で早稲田大学鎌田総長のVision 150、グローバルリーダー育成への熱い意気込みの表明があつた。

講演会は校友の黒岩神奈川県知事の『日本再生の神奈川モデル』の演題で講演があつた。最初に1970年との比較で2050年の神奈川県年齢別予想人口構成のショッキングなグラフを見せられ対応の重要性が強調され、県東部地域の『未病』への予防?(健康促進)、中部地域の介護ロボット開発推進の方向付け行動の紹介があつた。

会場を隣のメルキュールホテルに移しての懇親会はアトラクションで音楽演奏もあつて賑やかにエスニック料理を楽しんだ。大会旗が来年の主管返葉稲門会へ引き継がれ、恒例の校歌斉唱で閉会となった。(S37理工 鈴木清一)

## 講演会 『面白い日本語の発音』

元NHKアナウンサー 小林昭彦氏 (昭32年教育)

今年の講演会には当会顧問の元NHKアナウンサー、小林昭彦氏をお迎えし、「面白い日本語の発音」というテーマで講演を頂いた。普段何気なく使い、話している私たちの言葉・日本語について、発音上の便宜から、もとの音とは違った音に変えて発音する現象(音便現象という)について、具体的な事例を交えながら解説され、

使い勝手や人々の生活様式、時代の流れなどの中で、知らず知らずのうちに発音が変化していく言葉の面白さ、奥の深さについて改めて認識することが出来た。

そして、はっきりした言葉で話すには、明快な発音が必要でありそのために、口を動かしての発音練習を「口の体操」と称して、お持ち頂いたマニュアルをもとに実



践的に解説された。これから、今日頂いたマニュアルで、「口の体操」を一日数分間で良いので毎日行ない、お互いに綺麗で明快な発音が出来よう努めて行きたい。

(S35商 斉藤安功)